

伝道主日
説教

目標を目指してひたすら走る

<フィリピ 3:13～14>

千 奉 祚 牧師 (折尾教会)



私たちは、心の深い変化と信仰の大きな進歩をなすことによる幸福を望んでいます。パウロは、今日の御言葉で、切なる心でその祝福の道について教えてくれます。この教えをよく聞いて日々新しく変わり驚くべき信仰の成長を遂げる喜びがあるように祈ります。

1. イエス様を知る知識は、最も高尚な知識

パウロは、過去には人間的な幸福の条件を誇りにし、律法を行うことで救いを得ようとしていました。そんな彼がある日、イエス様に出会いました。その後、パウロは自分が最も大切に思っていた幸福の条件を完全に捨ててしまいました。キリストを知る知識があまりにも幸せであるので信じる前に大切にしていたことを全部捨ててしまいました。あえて、糞のように汚く有害なものであると見なしたのです。それは、それらが最も高尚な知識であるイエス様を知ることを妨げるものだったからでありました。パウロは、復活のイエス様に出会い自分の罪を悔い改め赦していただいた時、驚くべき天の喜びと幸福を味わいました。人生最大の喜びは、罪の赦しの喜びだったのです。

「韓国のシュバイツァー」と呼ばれた張起呂博士は、医師になった後、困難な隣人のために献身的な診療をしました。彼が八十歳の誕生日を迎えたときに、いくつかの人生の喜びについて話しました。第一は、結婚後息子が生まれて天にも昇るような喜びを経験したことでした。第二は、孫基禎選手がベルリン・オリンピックのマラソン競技で優勝した時、民族的な喜びを味わったことでした。しかし、それらよりも遥かに勝る喜びは、イエス様を救い主として信じ、罪を悔い改めて罪が赦されたという確信を持ったときの喜びだと言っていました。前述の喜びはこの喜びに比べれば本当に取るに足らないものであったと言うことです。

主イエスよりも貴重なものはないのです。英国の電気分解に対する優れた理論家であるハンブリー・デービー博士(1778～1829年)は、世で最も貴重なものについてこう言いました。

「私は他人の精神力、天才性、権力、富を羨まない。私にとって最も大切なことを選択しなさいと言われたら、私はイエス・キリストへの信仰を選ぶだろう。信仰は、人生の善を訓練させ、希望が衰える時に新しい希望を与え、生と死を悟らせてくれ、屈辱と恥を天国に向かう梯子になるようにし、永遠の喜びを与える。」

私たちは、善い行いや世間的な祝福によって真の幸せを得るこ

とができません。キリストの十字架の赦しを信じる信仰によって天国の幸せを享受できるようになるのです。私たちが、打ち砕かれた心を持って自分の罪を悔い改め、十字架の憐みを信じる道を歩むことで心の深い変化と真の幸せを存分に味わいましょう。

2. イエス様を知ろうとする目標を目指しての全力疾走

パウロは、キリストを知る知識がダマスコ途上で一度に全部得られたのではないと言います。イエス様をさらに知っていくという信仰の成長・進歩が大きな目標として待っているのです。競走選手は目標だけに向かって渾身の力を傾けなければ優勝することができません。そのように、クリスチャンがキリストを知る知識において成熟するためには、その目標への執念と絶え間のない努力が必要です。

パウロは、目標に到達して賞を得るために過去のことをすべて忘れ、また、将来の他の目標も全部捨てました。ただ一つの目標であるキリストを人格的に知っていることに集中していたのです。彼は、その目標に達すると、神様が賞を下さることを望んでいました。神様は賞を授けて下さるお方だからです。私たちの信仰が成熟するほど天の賞は大きいのです。マラソン選手たちは、メダルの受賞という喜びのために全力を尽くし死ぬほどの苦しみをも喜んで耐え忍ぶのです。私たちも天の賞を目指して、全力疾走ができるように聖霊の励ましを求めて祈りましょう。

愛の原爆と言われる故孫良源牧師の情熱的にイエス様を追求す言葉を聞いてみましょう。「私はイエスの中毒者なければならない。アルコール中毒者は酒のみで生きて酒のゆえに死ぬようになり、アヘン中毒者はアヘンで生きてアヘンのゆえに死ぬようになるものだ、そのように私たちがイエスによって中毒され、イエスによって生きイエスによって死のう、私たちの全生活と命を主のために生きれば主によって復活される。主の僕だから主のためにのみ働く者となり、私の仕事にならないようにしよう。」

生きておられる復活の主イエス様が私たちに聖霊で満たして下さるように祈ります。私たちは、イエス様を知る知識が最高に高尚な知識だと確信しましょう。また、熱い情熱に燃えてイエス様を知りたいという目標を目指して全力で走ること、また主が私たちに与えられた伝道の使命を全うすることができることを願います。

在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国YMCAは皆様と共に歩みます。



東京◆ホテル：東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。

10名様～200名様様の会議及び宿泊研修(50名)も可能。

◆スペースYホール：200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。

◆韓国文化教室(チャング・カヤグム・舞踊) ◆韓国語講座 ◆各種こどもクラス

◆YMCA東京日本語学校(3ヶ月～2年、短期研修)

関西◆にほんご教室(新規開講・募集中) ◆韓国民俗芸術科(舞踊・チャンゴ)

税込	平日	休・休前日
シングル	¥6,500	¥6,000
ダブル	¥10,500	¥9,700
トリプル	¥13,500	¥12,500
※朝食・コーヒー¥200(宿泊者価格)		

在日本韓国YMCA <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/> *会員及び教職者割引有。詳しくはお問い合わせください。

東京韓国YMCAアジア青少年センター 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-5 ☎03-3233-0611

関西韓国YMCAアジア青少年センター 〒537-0025 大阪市東成区中道3-14-15 ☎06-6981-0782

大阪教会の老人大学紹介

鄭然元牧師(大阪教会)

毎週火曜日午前11時になると教会の前の駐車場は自転車であいっばいになる。老人大学が開かれる日である。2004年4月、大阪教会敬老学校を開校して以来大阪教会に70歳以上の大学生が集まる。2016年においては年36回、お年より参加者週平均100名、協力者22名、年間の総動員数は4,500名となる。

なぜ老人大学？

私たちが住んでいる日本は「超高齢化社会」である。老人大学が始まった2004年の統計によると高齢者は2,430万人で全人口の19%であったが、昨年2016年の統計では総人口1億2,500万人中、UNが定めた65歳以上の人口が27.1%、3,440万人で、この間老人人口が1,000万人増加したのである。

1963年100歳以上の高齢者は153名であったが昨年の報告によると65,962名となり、人生100歳と言う言葉が自然に聞こえる。時代の変化により健康になったお年寄りの平均寿命が延びて2050年になると人口全体の35%が老人層になることを予測している。



教会学校の教育対象となる0歳から14歳が全国民の12.5パーセントの状況で、その2倍に当たる老人教育を私たちどのように考えているかを振り返ってみるべきである。

大阪教会は今年創立96周年を迎える。在日同胞2世たちが老後を迎える2000年度から教会内の老人層は信徒の3分の1に達した。女性会の70歳以上の会員で構成されたナオミ部と言うグループが毎週火曜日教会に集まり聖書を読み祈りおやつを共にし交わりの時を持つ集まりであった。大阪教会の堂会は女性だけでなく男性たちも共に参加できる敬老学校を開設する事を構想し、指導者養成のために大韓イエス教長老会老人大学連合会が主催する教師セミナーに参加して教育方向と方法について研究し、大阪教会に適切な老人大学運営法案を立てることとなった。最初から老人大学と言う名前を始めようとしたが、学生たちの反対意見により敬老学校と言う名前で始めることになった。その理由として 私たちは小学校もやっと卒業し、中学と高校にも通った事ありませんのにどうして大学生ですかというお年寄りの意見があった。それから2年後に老人大学と言う名前で1学科2年間を終了し、学士帽子とガウンを着て、40名が第一回卒業式を迎えることとなった(2016年まで140名)。

1. 老人大学の社会的、教育的意味

老年期を迎える老人世代は4つの苦痛を持っている。まずは経済的苦痛で、大家族制度の崩壊と親孝行に対する価値観の変化で収入がなくなる世代の苦痛。そして健康を損なう苦痛。老人の75%が1つ以上の慢性疾患を持っており、高齢と共に肉体的精神的苦痛が伴われる。また、役割喪失による苦痛は職場や生活から離れる事から来る断絶から来る苦しみである。定年を迎える先輩牧師の話に、40年近く牧会者として礼拝と信徒を見守る多量の役割のため、忙しく休めない牧会現場から、引退するやいなや役割が終わり、その時大きな虚無感があったという。老人世代には役割がないと言うことも1つの苦痛である。そして孤独と疎外の苦しみを持って生きる世代である。韓国と日本において60歳以上で配偶者を無くし一人暮らしをしている人は40%に達する。老年の生き方において伴侶が必要な世代であるにもかかわらず社会的観念によって、あるいは家族の不理解によって残りの人生を孤独の中で過ごさねばならない苦しみを

も持っている。

教育的な意味から見ると人生百歳で生涯教育と言う課題を持つ。もちろん大阪教会の老人大学の始まりによって大きく作用したのは今の老年層のお年寄りが生きてきた時代は教育の機会を十分に持たなかった世代であると言う事実である。日本で生まれ育った在日同胞2世や日本人の中に日本語の読み書きが不便なお年寄りが多くいたことにも驚かされ、韓国語を学ぶことを希望する学生もあり、最初は言語領域から老人大学の各科目が定まった。現在は韓国語初級中級クラス、日本語の初級中級クラス、英語の初級中級クラス、美術クラス、韓国伝統芸術クラスを運営している。

2. 宣教的側面での老人大学の可能性

大阪教会老人大学の最初の課題として宗教的なイメージの壁を崩す事であった。パンフレットを「大阪教会老人大学は国籍や宗教の区別をいたしません!」とし、2004年開講時のプログラム進行の言語は韓国語中心であったが、年月が経つにつれ日本語のプログラムになった。その原因として学生たちの分布が韓国圏から日本語圏に、クリスチャンからノンクリスチャンに変化したからである。老人大学に初めて参加する学生からの「先生私は韓国人ではありません。それでもいいですか? 私はお寺に行きます。あるいは創価学会に通っている学生も受け入れてくださいますか?」と言う質問から今の老人大学を見て取れる。もしクリスチャンが必要に応じて寺や神社の行事に参加しなければならない時、その1時間をどんな心持ちで座っていられようか? 現在ノンクリスチャンの半分以上となる大阪教会老人大学に参加する学生たちは、こんな宗教の異質感を持ちながらも、毎週火曜日を楽しみに参加している。午前11時から午後2時までの4時間、学生たちは礼拝堂と教会の中にとどまり活動を共にしている。全体的なプログラムの中ではメッセージもあり賛美の時間もある。しかし、その時間は聖書の内容を直接的に説明したり、キリスト教の信仰の強要はしない。生きがいのある健康的な老人生活と、人間関係の中で楽しみを分かち合うことに努力する。しかし老人大学学生たちが日曜礼拝に自発的に参加し、学習者や洗礼者の数が増えていることから宣教的な役割も多いと思われる。

3. 老人プログラムの新しい方向

教会内の老人プログラムは社会的な変化によって接近されるべきである。まずは老人教育プログラムは単純に福祉の次元を超えて生涯教育の一環としての「老人のための教育」となるべきであり、その目標は「老人による教育」が強調されるべきである。未来の老人教育は社会的に阻害された集団の単純な保護と優待の次元を超えて、老人が持つ独特なる苦痛や孤独を自ら克服しながら、継続的な発達を追求するよう助ける教育プログラムとなるべきである。老人のための教育プログラムは老人の自己開発要求に対応し、衰退時期でなく、継続的な発達と成長を持って老年期を迎えるべき共同認識が必要である。大阪教会老人大学の学生たちの参与と学習発表や奉仕を通して、生きがいを見出せるようにしたい。

4. 大阪教会老人大学の運営の実体

授業: 毎週火曜日(比較的教会の活動の少ない曜日を選択)

時間: 午前11時から午後2時まで4時間

プログラム内容: ●歌の勉強(20分間/韓国語、日本語、英語の



歌、賛美、民謡、歌曲、童謡など)

- メッセージ (20分間/ 老人生活に関する間接的に福音を伝える)
- 体操と案内 (20分間/お誕生祝い、新入生歓迎と紹介)
- 食事 (12時～30分)
- 韓国舞踊教室 (12時半～13時 全体対象)
- 各クラスの勉強 (13時～14時 韓国語、日本語、英語、美術、韓国伝統芸術)

予算：年間総予算250万円、大阪教会・個人支援金110万円、
大阪市福祉局食事支援金年間80万円、
個人の負担60万円

西部地方会

女性会と壮年会が 合同で修養会開催



西部地方会で初めて女性連合会・壮年会合同修養会が、去年10月9日(主日)～10日(月)に国民宿舎シーバル須磨で開催された。「主にあって共に生きる」の主題のもとに牧師8名、壮年会14名、女性会40名の総数62名の参加であった。

開会礼拝にはシオン合唱団の心に響く特別賛美と李聖雨牧師による「信仰者の人間関係」(レビ記19:14)と題で説教が行われた。講演Ⅰでは、梁榮友牧師による、「今まで気づかなかった自分の賜物」(ローマ12:6～8)という講演がなされ、夕食は秋の潮風を感じる屋外テラスでバーベキューを、またその場でのギター伴奏等により楽しく歌って大いに盛り上がった。最後はひとつの大きな円になって賛美し、韓世一牧師の晩祷で1日目を終えた。

2日目の朝祷会は、韓承哲牧師(神戸東部)による「一つにな

5. 2016年現在の登録学生数

- 学生数：総230名(地域住民180名・78%、信徒50名・22%)
- 特別行事：健康講座、愛信保育園児訪問、講演会、演奏会及び敬老パーティー、美容奉仕
- 教師及び奉仕者：教職者、食事奉仕者、老人指導者(74歳以上)
- 健康及び交通の不便な老人のための自動車送迎(運転者老人層)

大阪教会社会福祉部と女性会の積極的な支援と奉仕で運営され、大阪教会老人大学が成り立っている。

る真理」(エフェソ4:1～6)と題する説教、第2講演では、李重載牧師による「信仰は出来事を解釈する力である」(創50:15～21)というメッセージが与えられた。講演の後は女性会・壮年会が各々別にプログラムをもった。女性会は金必順牧師から提供された資料で聖書井戸ばたの時間をもち、壮年会は11月開催予定の信徒の集いについて話し合った。

昼食後、朴斗熙牧師による証しと賛美と祈りの時間をもった。閉会礼拝は地方会会長の金承熙牧師(岡山)による「良き管理者」(ペテロの手紙14:7～11)というメッセージが与えられた。

参加者全員が喜びと恵みを得て、それぞれ帰路に就くことができた。今回の礼拝席上献金5万円を熊本地震の被災者支援活動を行っている熊本教会へお送りした。(報告：崔美恵子)

西南地方会

クリスマス音楽礼拝開催

各教会の出し物でイエス誕生を祝う

12月11日(主日)、西南地方会においては、教会女性連合会・西南青年会の主催によるクリスマス音楽礼拝が福岡中央教会で行われた。

80名余りの参席者が礼拝堂いっぱい集り、連合聖歌隊による聖誕曲合唱と各教会からの出し物でイエス様のお誕生を共に喜び合う恒例行事である。



京都南部教会「東九条こども食堂」を運営

許 伯 基 (京都南部教会牧師)

昨年9月より、京都南部教会は「東九条こども食堂」という名前で、毎週木曜日の夕方に子ども食堂を運営しています。子ども食堂とはこの2～3年のうちに盛んになった地域運動で、子どもの貧困や孤食が問題になっている日本で「遅々とした政府や自治体の努力に任せてはおけない」と、民間の有志の方々が手作りの食事を子どもたちに提供しはじめたものです。やりがいがあり立ち上げやすい地域密着型のボランティアとして、今では全国的なブームになっています。

現在、平均人数は四十数名で、半分ぐらいが子どもたちです。本来の目的は、満腹に食事ができなかったり、親が働きに出ている間ひとりでご飯を食べている子どもたちに来てもらうことでしたが、今のところは「安く手軽に、誰でもご飯を食べられる地域の共生食堂」という雰囲気になっています。(子どもは無料、大人は300円)本来のターゲットの子どもたちに来てもらえるようになるには、おそらく、このサービスが地域に認知されて信用を得ることのできる数年後になるのではないかと、思います。ただ、今の「共生食堂」的な雰囲気も素晴らしく、子育てにいそしむ地域のお父さんお母さんたちが、毎週顔を合わせて世間話をし、その子どもたちは数珠つなぎになって遊んでいます。中には、ぬくもりを求めてやって来る独り身の中

高年の方々や、全協出身の牧師の試みを支えにやってくる全協OBたちなどもいて、とても貴重な集いの場となっています。

伝道活動は決してしないように気をつけていますが、地域の住民たちが毎週教会の門をくぐり、ゆっくりと食事をしていく、ということ自体が、素晴らしい「宣教活動」ではないかと思います。教会は多人数と一緒に食事が出来る設備を整えていることが多いので、子ども食堂にはうってつけです。皆さんの教会でも、始めてみてはいかがでしょうか？



関西地方会

新年査経会を開催

伝道・祈り・み言葉の業に力尽くす

関西地方会の2017年新年査経会が、伝道部の主催で、1月7日(土)～9日(月)、「心に響くみ言葉と讃美」という主題をもって開催された。大阪地域は大阪教会において、1月7日(土)李元重牧師(京都東山教会)、8日(主)朴成牧師(和歌山第一山教会)、京都地域では京都教会において、9日(月)朴喜煥牧師(関西地方会)をそれぞれ講師に招いて行った。すべての集会は恵みに溢れ、特に礼拝の前に、『新韓日讃頌歌』から新しい讃美歌を讃美する時間を持ったこ



とは、参加したすべてにとって有益であった。加えて、9日(月)には、関西地方会教役者会の主催で、「在日大韓基督教会の青年育成」というテーマで、教役者と師母を対象にセミナーを行った。金鍾権牧師(平野教会)と金成元長老(KCC館長)の発題を受けて議論し、青年宣教に的をしぼって深く考える良い機会となった。

とは、参加したすべてにとって有益であった。

加えて、9日(月)には、関西地方会教役者会の主催で、「在日大韓基督教会の青年育成」というテーマで、教役者と師母を対象にセミナーを行った。金鍾権牧師(平野教会)と金成元長老(KCC館長)の発題を受けて議論し、青年宣教に的をしぼって深く考える良い機会となった。

集会参加人数は、7日:70名、8日:100名、9日78名であった。二日目の集会では関聖連(関西地方聖歌隊連合)が讃美し、三日目は、京都教会の青年讃美チームが集会前の讃美を導き、礼拝では聖歌隊と教役者会が讃美をささげた。

今回の新年査教会は、各教会が新年を誠実な決意でスタートさせるための恵みの時間であった。このために、大阪教会と京都教会が場所を提供して礼拝を準備し、牧会者と信徒がそれぞれ祈り・讃美・伴奏・通訳・案内などの隠れた奉仕を担ってくださった。

これからも、関西地方の各教会が連合し、伝道・祈り・み言葉による恵みの業に力を尽くし、聖書を愛読し、讃美を歌い、神様に栄光を帰することを願うものである。(報告:宋南鉉牧師)

西南地方会

正初査経会・都諸職会開催

韓国から講師招き新讃美歌を学習

毎年行われる西南地方会の正初査経会・都諸職会が、伝道部の主催により、1月8日(主日)、教会音楽(礼拝と讃頌)という主題をもって西南地方会の各教会から70名ほどの人数が参加して福岡教会で行われた。

講師としては崔榮恩長老(韓国大邱基督教TV放送局社長)、白樂元長老(大邱芸術大学教授)、方成澤執事(大邱嶺南大学音大教授)を招き、総会から新韓日讃美歌が発行されたが、知らない曲が多いため、講師の専門家から学習を行った。

都諸職会では新年度の各教会の主な行事、課題、祈りを分かち合い共に祈った。今年は初めて遠く沖縄教会から、担任牧師と長老が参加して祈りの輪に加わった。



〈総会事務所休館のお知らせ〉

総会事務所は2月20日～24日まで、「マイノリティー宣教センター」開設内装工事のため業務を休みます。固定電話・FAXは通じません。メールは通じます。

青年全国協議会

第2回中央委員会開催

関東の個教会訪問活動も行う

青年会全国協議会の第2回中央委員会が1月14日(土)～15日(主日)、川崎教会において開催された。信徒委員長の金迅野牧師の祈りより始まり、各部報告と各討議を行った。討議事項は以下の通りである。①2017年2月10日、11日に行う青年のための研修会プログラム、②夏の修養会の宿決め、③青年祈祷文の内容、④日・韓・在日共同プログラム、⑤主題見解。

1日目の会議後、讃美会を川崎教会で行い、関東の青年数名と讃美を楽しんだ。その後鍋パーティーで心と体の温まるひと時を皆で過ごした。

翌日は関東の各教会(磐石教会、川崎教会、横須賀教会、西新井教会、品川教会、東京東部教会、船橋教会)に、個教会訪問をし広報をした。その時賛助していただいた個教会献金は、22万2801円であった。全協の活動にご理解ご協力いただけることは本当に感謝である。個教会訪問による様々な出会いは、役員たちにとっても良き刺激であり、1人でも多くの青年と出会い良き交流を深めることができることは、かけがえのない恵みである。主の御手の中で、青年同士の交流が活発になるように祈り求め続けたい。(報告:総務 呉眞雅)



熊本だより

～仮設団地でクリスマス会開催～

12016年12月23日、熊本地震で甚大な被害を受けた御船町南木倉仮設団地の「みんなの家」にて、熊本YMCA主催によるクリスマス会が行われました。約60名が集い、金聖孝牧師のメ



セージから始まり、福岡雙葉学園高校の学生たちがハンドベルと賛美を捧げ、西南地方教会女性連合会と有志の方がケーキをプレゼントし、KCCJと教団九州教区共同運営のボランティアセンターエルピスクまもとがサンドイッチとクッキーを提供しました。参加者みんなでクリスマスソングを歌ったり、サンタさんの登場があったりと、主の恵みと笑顔にあふれる時でした。まるで教会でのクリスマス会のようなものでした。皆さん両手にいっぱいプレゼントを持って帰って行かれました。

在日大韓基督教会熊本教会牧師
エルピスクまもとセンター長 金 聖 孝